

13 生涯学習のまちづくり			
主管課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課		
主管課長名	福山 武志	電話番号	042-481-7541
関係課名 （組織順）	協働推進課, 男女共同参画推進課, スポーツ振興課, 環境政策課, 社会教育課, 公民館, 図書館, 郷土博物館		
目的	対象	市民	
	意図	生涯にわたり学習し、学んだことをまちづくりに生かす	
施策の方向	市民が生涯を通じて学習に取り組み、いきいきと豊かな人生をおくることができるよう支援するとともに、学んだ成果が市民同士の交流やまちづくりに生かされるよう、生涯学習を振興していきます。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 令和3年度の振り返り — 取組実績（DO）

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）	
<p>（13-1 学びのきっかけづくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な学びのきっかけづくりとして生涯学習出前講座を118講座設け、令和3年度は62回実施した。（そのほか新型コロナウイルスの影響により14件の中止等あり） 市民が生涯学習の楽しさを知り、地域との関わりを持つ機会を提供することを目的とした生涯学習サークル体験事業について、13サークルが実施し、延べ48人が参加した。また、「サークル体験 in みんなの広場」を2回実施し、延べ23人が参加した。 学びに関する情報提供及び相談について、生涯学習情報コーナーと市民活動支援センターが拠点となり、幅広い情報収集と提供に努めた。また、社会教育情報紙「コラボ」を2回発行（年3回発行予定のうち、新型コロナウイルスの影響により1回を休刊）し、市内の小・中学校・社会教育施設に配布するなど社会教育に関する様々な事業や情報の周知を図った。 図書館では、新型コロナウイルスの影響により中止となった事業もあるが、講演会や読書会等の啓発事業を実施するとともに、図書館だよりの発行等を通じた図書館活動のPRを行った。子どもたちへの取組としては、小学生読書会やおはなし会、小学校と連携した図書館ガイダンス等を実施した。 	
<p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びに関する情報提供において、生涯学習情報コーナー及び市民活動支援センターの連携の下、「ちょうふ地域コミュニティサイト（ちょみっと）」と生涯学習情報専用ページ「生涯学習情報コーナー」を連動させながら、引き続き積極的な情報発信を図った。 <ul style="list-style-type: none"> ■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」 <ul style="list-style-type: none"> シニア世代に向けては、地域活動を始めるきっかけづくりとして、市民活動団体との協働により地域デビュー事業を推進しており、令和3年度は、地域デビュー歓迎会に38人、調布の魅力を再発見してもらう学習会&徒歩ツアーに50人、サークルの活動内容を紹介し参加を促す企画に40人、地域でのボランティア活動を促す講演等に32人が参加した。 ■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛期間に合わせて、自宅で学べて楽しめる2019年・2020年関連コンテンツをホームページ等で発信した。 	
<p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門職である調布市生涯学習まちづくり推進員が、文化会館たづくり11階の調布市生涯学習情報コーナーにおいて、市内で活動する各種サークル・団体情報、講師情報等の情報提供や相談対応を行った。 	
<p>（13-2 学べる機会の充実）</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館では、市民の多様な学習ニーズに応えるため、図書や雑誌など新たに約4万7千点を受け入れるとともに、年間延べ約239万点の貸出しを行ったほか、調布市に関する新聞記事、ポスター等の地域資料のデジタル化を推進した。 新型コロナウイルスの影響により中止となった事業もあるが、公民館では、講演会、市民講座、市民文化教室、高齢者教育、国際理解教育、家庭教育、青少年教育、共催、平和などの多様な事業を展開した。また、（公財）調布市文化・コミュニティ振興財団では、「ちょうふ市民カレッジ」として、美術、陶芸、音楽、映画、古典・伝統など幅広い分野における講座を実施し、コロナ禍においても学習活動の機会の確保に努めた。 市と相互友好協力協定を締結している7大学等について、各大学等の魅力を市民へ伝え、市民の生涯学習にもつながるよう、市との連携事業や各大学等における市民向けの取組等に関して情報共有を図ったほか、コロナ禍における各大学の取組や学生の生活状況等についてオンラインによる情報交換を行った。 	

①横断的連携による施策の推進

・コロナ禍においても市民に多様な学習機会を提供するため、市民をはじめ、(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団や相互友好協力協定締結大学、民間事業者等の多様な主体と連携を図りながら、内容の充実に努めた。

■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」

・図書館がより効果的な学習活動の拠点として機能するよう、多様な資料や情報の収集、整理、提供、保存を行うとともに、だれもが読書や調査をできるよう、音訳、点訳、対面朗読、宅配など利用支援の充実に努めている。

■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」

・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団が実施する「ちょうふ市民カレッジ」では、東京2020大会に向け、伝統文化を次世代に継承する講座を実施した。

②調布のまちの魅力発信

・協定大学等との連携において、電気通信大学との共催により「サイエンスカフェChofu」をオンラインで開催した。また、相互友好協力協定大学の研究成果や学びを発表する「調布市協定大学ゼミ展」について、令和3年度は、オンライン開催となったまち活フェスタに出展し、令和元年度調布市協定大学ゼミ展の映像を放送した。

・図書館では、水木しげる氏の著作を収集・提供し、その人生や平和の思いの普及・継承に努めるほか、映画資料の収集・提供を通じ、映画のまち調布の推進を図った。

(13-3 団体の学びの活動支援)

・サークルガイドブックの発行や生涯学習サークル体験事業の実施などにより、生涯学習サークルの会員増に努めるとともに、団体の活性化に向けた支援を行った。

・市民や生涯学習・市民活動団体が自由に生涯学習活動を行う場である「みんなの広場」について、令和3年度は利用を停止した期間もあったが、1719団体、7917人が利用し、個人学習利用210人と合わせると8127人が利用した。

・社会教育分野では、市民の自主的な学習活動をサポートする学習グループサポート事業を実施し、7グループの活動を支援することにより、共同学習・相互学習の推進及び学習成果の地域還元を図った。また、小・中学校のPTAが企画運営し、保護者や地域住民が教育力を高める目的で実施する「家庭教育セミナー」について、令和3年度は4校のPTAが実施し、情報提供及び講師謝礼等助成により支援した。

・図書館では、生涯学習団体との連携の下、市民の読書・文化活動を推進し、一部中止となった事業もあるが、文芸講演会、公開講座などを実施した。

①横断的連携による施策の推進

・文化会館づくりや図書館、公民館など市内の生涯学習・社会教育施設が連携しながら、市民や生涯学習・市民活動団体が活動を行うことができる場の確保を図り、「学び」の活動支援を行った。

②調布のまちの魅力発信

・文化会館づくり11階「みんなの広場」は、生涯学習・市民活動団体等による作品展示の場としても活用されており、令和3年度は、19団体が展示を行った。

(13-4 まちづくりへの学びの成果の活用)

・地域デビュー事業における学習会&徒歩ツアーでは、既に地域での活動を始めている市民を講師として、「調布と京王線」をテーマに参加した市民に調布の歴史や魅力について講義していただいた。

・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団では、芸術・文化の裾野の拡大と普及を目指すために市民が講師を務める「市民講師講座」を2講座開講した。

・「学んだことを役立てる場面があれば提供したい」というサークルと「ボランティアでイベントへの出演や一緒に学習していただける方の派遣をお願いしたい」という地域団体等をつなぐため、ボランティアに協力いただけるサークルを1冊にまとめた「生涯学習サークルボランティアメニュー」を発行した。

①横断的連携による施策の推進

・生涯学習情報コーナーや市民活動支援センター等において、生涯学習で身につけた知識・技能や経験を、ボランティア活動等に生かそうとする人と、地域人材を求めている人や場をつなげるコーディネートを行い、市民の活動を支援している。

■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」

・高齢者が健康を維持しながらいきいきと豊かな人生を送ることができるよう地域活動に参加するきっかけづくりや機会の創出を図る地域デビュー事業については、自身が地域デビュー事業に参加したことがきっかけで地域デビュー推進委員会に加入した方々の企画・運営により実施した。

■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」

・東京2020大会に向けた「調布市おもてなしボランティア」が、環境部が実施した「飛田給駅前及び調布駅前クリーン作戦」に参加した。

②調布のまちの魅力発信

・市民で組織された地域デビュー推進委員会との協働により地域デビュー事業を展開しており、各事業の企画・運営等も推進委員会が担っているが、推進委員会自体が地域デビューの受け皿としても機能している。

<令和3年度における施策の成果についての総括>

・コロナ禍においても生涯学習出前講座をはじめ、公民館や図書館での各種講座、(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団における「ちょうふ市民カレッジ」、相互友好協力協定締結大学との連携事業、市民団体や民間事業者等との連携事業などにより、広く多様な学習機会の提供を図った。

・シニア世代が地域活動を始めるきっかけづくりとして、市民との協働により地域デビュー事業「調布再発見学習会&徒歩ツアー」等を実施し、アクティブシニアの地域活動への参加促進を図った。

・協定大学との連携では、電気通信大学との「サイエンスカフェChofu」のオンライン開催に加え、協定大学7大学等との共催による「調布市協定大学ゼミ展」について、オンライン開催となった「まち活フェスタ」へ出展し、より広く大学での研究成果や学びを発表した。

・図書館では、新たな図書、雑誌などの受入れは約4万7千点、聴覚資料や団体貸出を含めた貸出は年間延べ約239万点であったほか、図書館所蔵の地域資料や映画資料をデジタル化し、資料の保存・活用を推進した。

まちづくり指標	基準値 (基準年度)	単位	実績値			目標値	達成状況*
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和3年度
1 1年間に生涯学習をした人の割合	38.6 (H30)	%	40.0	24.3	28.4	40.0	○
2 社会教育施設の満足度(上段:図書館, 下段:公民館)	68.3 41.2 (H30)	% %	77.9 74.8	80.4 75.4	79.6 74.3	75.0 50.0	◎ ◎
3 生涯学習情報コーナーのアクセス数	8万 3,014 (H29)	件	6万 295	3万 9,848	6万 939	9万	○
4 学習の成果をまちづくりに生かしている市民の割合	19.3 (H30)	%	20.6	13.4	14.4	25.0	○
【特記事項】							

※R3年度の達成状況は、以下の区分により記号を記入

- ◎: 目標値を達成
- : 前年度より向上した
- ▼: 前年度より低下した
- ⇒: 前年度と同じ
- : 数値未把握(調査未実施など)

◆まちづくり指標の目標達成見込み(令和4年度見込みを含めた現基本計画期間における達成度)

- ・達成見込みを次の区分により記号を記入
- ◎: 「目標値達成に向け順調に推移」
 - : 「目標値達成は現状難しいが、前年度より向上する見込み」
 - △: 「目標値達成は現状難しく、前年度と同等又は悪化する見込み」

まちづくり指標	達成見込み	要因・課題 (目標達成・未達成の要因・次期基本計画に向けた課題等)
1 1年間に生涯学習をした人の割合 (目標値: 40.0% 現状値: 28.4%)	○	新型コロナウイルスの影響により生涯学習の機会や活動が制限されたため、目標値を達成していないが、引き続き学びのきっかけづくりに取り組む。
2 社会教育施設の満足度(上段:図書館, 下段:公民館) (目標値: 図書館 75.0% 現状値: 図書館 79.6% 公民館 50.0% 公民館 74.3%)	◎	あらゆる世代が利用できる身近な学習の場として、図書館・公民館がそれぞれの特性を生かした各種事業やサービスの提供を図ったため。
3 生涯学習情報コーナーのアクセス数 (目標値: 9万件 現状値: 6万939件)	○	新型コロナウイルスの影響により生涯学習の機会や活動が制限されたため、目標値を達成していないが、令和2年度の大幅な減少から令和元年度水準までアクセス数の回復が見られたため、引き続き生涯学習に関する情報提供に取り組む。
4 学習の成果をまちづくりに生かしている市民の割合 (目標値: 25.0% 現状値: 14.4%)	○	新型コロナウイルスの影響により生涯学習の機会や活動が制限されたため、目標値を達成していないが、令和2年度と比較して増加した。引き続き学習成果のまちづくりへの活用に取り組む。

2 令和3年度の振り返り — 評価 (CHECK)

◆施策の成果向上に向けて、令和3年度に実施した取組に対する評価 ※コロナ禍を踏まえたプロセス、実績、成果の総合評価

総合評価	A	S:「実施した取組において顕著な成果が得られた。」 A:「実施した取組において予定した成果が得られた。」 B:「実施した取組において一定程度の成果が得られた。」 C:「実施した取組においてあまり成果が得られなかった。」 D:「実施した取組において成果が得られなかった。」
評価理由	・公民館や図書館での各種講座、(公財)調布市文化コミュニティ振興財団における「ちょうふ市民カレッジ」、電気通信大学との共催による「サイエンスカフェChofu」などをオンラインにより開催したほか、文化会館たづくりの利用停止期間に電話及びメールにより相談に対応するなど、工夫を凝らしながら各種事業を実施し、市民の生涯学習活動を支援することができたため。	

◆現基本計画期間(令和4年度見込みを含む)における施策の取組状況

・左欄と右欄において、丸数字で対になるよう記載

計画どおり・計画より進んだ取組等 (現基本計画で予定した成果が十分得られる)	今後の取組の方向 ※近隣自治体との比較があれば併せて記載
①学びのきっかけづくり ②学べる機会の充実 ③団体の学びの活動支援 ④まちづくりへの学びの成果の活用	①生涯学習出前講座、生涯学習サークル体験事業、地域デビュー事業などを実施し、多様な学びのきっかけづくりに取り組むとともに、生涯学習情報コーナーや地域コミュニティサイト「ちょみっと」を活用し、市民が学習を始めたい時に適切な情報提供を行う。 ②文化会館たづくり、公民館や図書館での各種講座やサービスの充実を図る。 ③生涯学習活動の拠点である「みんなの広場」において利用団体の交流を図るとともに、文化会館たづくりや各社会教育施設など身近な学びの場を確保するほか、学習グループサポート事業を実施し、生涯学習団体等の学びを支援する。 ④学習成果を発表する機会の提供や、生涯学習コーナーや市民活動支援センター等において生涯学習で身に着けた知識、経験等をボランティア活動等に生かそうとする人と、地域人材を求めの人や場をつなげるコーディネートを行う。
計画より遅れた取組等 (現基本計画で予定した成果が得られない)	遅れの理由や次期基本計画に向けた対応課題等 ※近隣自治体との比較があれば併せて記載

◆現基本計画期間(令和4年度見込みを含む4年間)における施策の成果についての総括

・「調布市生涯学習振興プラン」に基づき、市民が学びを始めるきっかけづくりや、学習機会の充実、生涯学習団体等が学びを継続するための支援を行うとともに、学びの成果をまちづくりに生かすための支援を行い、広く市民の学びを支援する取組を実施した。 ・生涯学習出前講座、生涯学習サークル体験事業、地域デビュー事業などを実施するとともに、生涯学習情報コーナーと市民活動支援センターとの連携による情報発信や、社会教育情報誌や図書館だより等の発行を通じた情報提供を行い、市民の多様な学びのきっかけづくりに取り組んだ。 ・文化会館たづくりや各社会教育施設における各種講座や、相互友好協力協定締結大学との共催による講座などを実施したほか、図書館においては多様な資料や情報の収集、提供を行うとともに、だれもが読書や調査をできるよう音訳、点訳等の利用支援の充実を図るなど、学びの機会の充実に取り組んだ。 ・文化会館たづくりや各社会教育施設など身近な学びの場を確保するとともに、生涯学習団体等の活動拠点である「みんなの広場」において交流を図ったほか、サークルガイドブックの発行、社会教育分野における学習グループサポート事業の実施などを通して、生涯学習団体の学びの支援を行った。 ・市民が学習成果を発表する機会の提供や、生涯学習コーナーや市民活動支援センター等において生涯学習で身に着けた知識、経験等をボランティア活動等に生かそうとする人と、地域人材を求めの人や場をつなげるコーディネートを行うなど、学びの成果をまちづくりに生かすための支援を行った。	
評価	【評価区分】 現基本計画期間(令和4年度見込みを含む4年間)に対する進捗状況について、S～Dの5段階で評価 S:「計画以上に進捗した。予定以上の取組成果が得られた。」 A:「計画どおりに進捗した。予定した取組成果が得られた。」 B:「概ね計画どおりに進捗した。一定の取組成果が得られた。」 C:「進捗にやや遅れがみられた。あまり取組成果が得られなかった。」 D:「進捗に大きな遅れがみられた。ほとんど取組成果が得られなかった。」

3 次期総合計画期間を含む中長期的な施策の方向（2030年代を見据えた方向） — (ACTION)

◆施策を取り巻く状況【A】（国，東京都・近隣自治体の動向など）を踏まえた取組の方向

※次期基本計画における重要な視点となる「デジタルトランスフォーメーション（DX）・スマートシティ」, 「カーボンニュートラル」, 「産学官連携」のほか, 施策横断的なテーマである「共生社会の充実（パラハート）」, 「安全・安心（防災・減災・防犯・感染症対策）」, 「ソフト・ハードが一体となったまちづくり（中心市街地整備, 地域別まちづくり, 都市計画道路整備）」に関する状況や方向を記載

・右欄は左欄に対応する丸数字を記載

	市政に与える影響	左記を踏まえた市の対応課題・取組の方向
全国的な潮流・傾向等		
東京都や近隣自治体の動向等		
その他		

◆施策を取り巻く状況【B】（国，東京都・近隣自治体の動向など）を踏まえた取組の方向

※上記の施策を取り巻く状況【A】の項目以外で, 法改正・制度改正などの状況や方向を記載

・右欄は左欄に対応する丸数字を記載

	市政に与える影響	左記を踏まえた市の対応課題・取組の方向
全国的な潮流・傾向等	<p>①内閣府が平成30年度に「生涯学習に関する世論調査」実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の状況, 社会人の学習に関する考え方, 地域や社会での活動に対する考え方などの項目について調査 <p>②文部科学省が平成30年4月に「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（第四次）」策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣の形成に向けて, 発達段階ごとの効果的な取組を推進することや, 友人同士で本を薦め合うなど, 読書への関心を高める取組を充実させることが盛り込まれた。 	<p>①③④生涯学習, 社会教育の推進について, 庁内横断的な連携の下, より効果的な施策の展開に向けて検討を進める中で, 「調布市生涯学習振興プラン」及び「調布市社会教育計画」の計画期間終了後を見据え, 今後の生涯学習振興及び社会教育振興の連携の方向等について検討するための課題整理を行う。</p> <p>②「第3次調布市子ども読書活動推進計画」に基づき, 子どもの発達段階に応じた読書環境の整備・充実を図り, 家庭・地域・学校・行政が連携して, 子どもの読書活動を推進</p>
東京都や近隣自治体の動向等	<p>③東京都生涯学習審議会条例が改正され, 東京都生涯学習審議会と東京都社会教育委員の機能が統合されるとともに, 東京都社会教育委員の設置に関する条例が廃止された。（東京都 平成26年4月1日施行）</p>	
その他	<p>④「調布市生涯学習振興プラン」及び「調布市社会教育計画」の計画期間がともに令和4年度までとなっている。</p>	

施策13「生涯学習のまちづくり」に関する基本計画事業

計画コード	43	重点P		-
事務事業	学習活動及びまちづくりへの参加の促進			総合戦略 ●
所管部署	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課 文化生涯学習係			
事業概要	市民一人一人の知識や経験を生かし、地域で活躍してもらえるよう、市民団体、大学、民間事業者等との協働により、地域デビュー歓迎会やサークル体験事業のほか、様々な生涯学習講座を実施し、各種活動への参加のきっかけづくりを行う。			
[PLAN▶DO▶CHECK]				
活動内容 (事業費ベース)	計画目標 ○主にシニア世代の市民を対象に生涯学習活動や地域活動に参加するきっかけをつくる ○サークルの団体活動を活性化させる	令和3年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○各種地域デビュー事業 ○生涯学習サークル体験事業	○各種地域デビュー事業 ○生涯学習サークル体験事業	○各種地域デビュー事業 ○生涯学習サークル体験事業	
事業費 (千円)	500	400	400	
債務負担行為等による用地取得費	0	0	0	
令和3年度取組実績	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し <input type="checkbox"/> コロナ影響			実績評価 ○
説明	地域デビュー事業では、地域デビュー推進委員会と連携し、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、「地域デビュー歓迎会」や「調布再発見ツアー」等を実施した。また、地域デビュー事業の内容や推進委員の紹介、活動の様子の写真等を掲載したパンフレットを作成し、生涯学習情報コーナーの窓口やイベント開催時に配布することで、事業の周知に努めた。 あわせて、調布市地域情報化推進協議会と連携し、地域メディアを活用したイベントの情報発信に取り組んだ。 サークルの活動支援においては、生涯学習コーナーにおける相談支援のほか、サークル団体との連携により、生涯学習サークル体験事業「サークル体験inみんなの広場」を全2回実施し、参加者へサークル入会に向けたきっかけを提供することができた(参加者数:延べ23人)。			
				
[ACTION]				
今後の方向	<input type="checkbox"/> 現状継続 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input checked="" type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善			
今後の取組の方向	現行の「調布市生涯学習振興プラン」は、令和4年度で計画期間が終了することから、プラン終了後を見据えた課題整理を行うとともに、次期基本計画において、生涯学習振興に関する基本的な考えや取組の位置付けなどを検討していく中で、学びのきっかけづくりや学習機会の充実に取り組む必要がある。また、生涯学習まちづくり推進員と連携した生涯学習情報コーナーでの情報提供・相談事業のほか、市民との協働により実施するシニア世代を主な対象とした地域デビュー事業やサークル体験事業、多様な学習機会の提供など、生涯学習のきっかけづくりや活動の継続・発展に向けた取組について、効果的な展開を検討する。			

※新型コロナウイルスの影響に関連する内容は冒頭に「◆」印を記載しています。

施策13「生涯学習のまちづくり」に関連する基本計画事業

計画コード	44	重点P		-
事務事業	市民の読書・調査活動への支援			総合戦略 ●
所管部署	教育部 図書館 資料係・図書館サービス係・調査支援係・利用支援係・児童サービス係			
事業概要	市民の生涯学習・文化・生活を支えるインフラとして、暮らしに役立つ魅力ある図書館を目指してサービスを実施し充実させる。また、市民に身近な機関として機能するよう、人材育成に努める。一般書・児童書・地域資料・映画資料・電子資料・雑誌・新聞等、各世代に求められる資料・情報を選定・収集・整理・提供・保存する。貴重な地域資料等を活用するためにデジタル化を行う。市民からの多様な資料要求に応えるため、資料目録データを整備し、貸出・検索・予約等に係るシステムの利便性を高める。蔵書の新鮮さを保つため、年数を経た資料は修理・製本・除籍を行い、資料的価値を考慮して保存庫等で所蔵する。音訳、点訳、宅配等により、誰もが生涯学習に取り組めるよう支援する。			
[PLAN▶DO▶CHECK]				
活動内容 (事業費ベース)	計画目標	令和3年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	<ul style="list-style-type: none"> ○資料・情報の選定、収集、整理、提供、保存 ○資料目録データの整備 ○保存スペースの確保 ○電算システムの更新及び効率化の検討 ○職員・会計年度任用職員の能力の向上 ○マルチメディアDAISY図書作成 ○地域資料等貴重な資料のデジタル化 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料・情報の選定、収集、整理、提供、保存 ○資料目録データの整備 ○次期電算システムの更新に向けての検討 ○電子書籍の導入検討 ○職員・会計年度任用職員の能力向上のための研修 ○ブックスタート事業の実施 ○マルチメディアDAISY図書作成 ○地域資料等のデジタル化 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料・情報の選定、収集、整理、提供、保存 ○資料目録データの整備 ○次期電算システムの更新に向けての検討 ○電子書籍の導入検討 ○職員・会計年度任用職員の能力向上のための研修 ○ブックスタート事業の実施 ○マルチメディアDAISY図書作成 ○地域資料等のデジタル化 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料・情報の選定、収集、整理、提供、保存 ○資料目録データの整備 ○次期電算システムの更新に向けての検討 ○電子書籍の導入検討 ○職員・会計年度任用職員の能力向上のための研修 ○ブックスタート事業の実施 ○マルチメディアDAISY図書作成 ○地域資料等のデジタル化
事業費 (千円)		339,802	345,820	345,566
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0
令和3年度取組実績	<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり <input type="checkbox"/> 計画遅れ <input type="checkbox"/> 計画前倒し <input type="checkbox"/> コロナ影響			実績評価 ○
説明	市民に身近な施設として、中央図書館と10の分館を運営し、市民の多様な学習ニーズに応えるため、約4万7千点の図書・雑誌・視聴覚資料を新たに受け入れつつ、年間延べ約239万点の貸出しを行った。また、多様な資料要求に的確に応えるため、各種データを整備し、利便性の向上を図った。緊急事態宣言等の間は新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館やサービスの一部休止を行った。なお開館に際しては、利用者の安心・安全を考慮し、カウンターへ防護幕を設置したほか、設備や資料の消毒を実施する等、感染防止対策を行った。職員の人材育成を図るため、定期的な職場内研修を実施するほか、オンラインを活用した外部研修にも参加した。電子書籍の導入検討のため、電子図書館サービスの調査を行った。1歳6か月児健診でブックスタートバックを1137部配付し、乳幼児がいる家庭での読み聞かせを推進した。新たに作成したマルチメディアDAISY図書を26点受け入れた。 ※「マルチメディアDAISY図書」とは、文字情報を理解することが難しい方をサポートする電子図書。			
[ACTION]				
今後の方向	<input checked="" type="checkbox"/> 現状継続 <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 財政面改善 <input type="checkbox"/> 市民参加と協働の取組改善			
今後の取組の方向	今後も市民の生涯学習・文化活動・日常生活に欠かせないインフラとして、市民に身近な図書館づくりに努めつつ、生活を支え、暮らしに役立つ魅力的な図書館であり続けるために、各種図書館サービスを実施し充実させる。感染症対策を行いながら、非来館型のサービスについても検討していく。市民からの多様化する資料要求に的確に応えるため、図書・雑誌・地域資料・行政資料・映画資料・電子資料・視聴覚資料などの資料を収集・整理・提供・保存するほか、図書館相互貸借制度などを通して、国・都道府県・市区町村立及び大学図書館と緊密に連携し、市民への資料提供を行う。高架下資料保存庫の除却に伴い、20万冊の資料保管場所の確保について庁内関連部署と協議を行い、貴重な市民の共有財産を適切に保存・提供できるようにしていく。利用者のニーズに応えられるよう創意工夫を凝らし、魅力ある図書館を目指す。			

※新型コロナウイルスの影響に関連する内容は冒頭に「◆」印を記載しています。